



SALESFORCE DEVELOPER の制限および割り当てクイックリファレンス

サマリー

Lightning Platform アプリケーションの開発に関する最も重要な制限について説明しています。

このクイックリファレンスについて

このクイックリファレンスでは、Salesforceの一般的な制限と割り当てについて説明しており、すべての制限や割り当てを網羅しているわけではありません。Salesforce組織によっては適用されない制限や割り当ても含まれています。すべての状況で指定されたリソースが規定の制限まで使用できるとは限りません。負荷、パフォーマンスやその他のシステムの問題によっては、その制限に達する前に使用できなくなる場合があります。

このガイドでは次の制限や割り当てについては説明していません。

- Salesforce アプリケーションのユーザインターフェース要素
- Salesforce オブジェクトの項目の長さ
- デスクトップインテグレーションクライアント
- Salesforce 契約

組織のルールの合計数や有効なルール数など、特定の機能の制限についての情報もSalesforceヘルプに記載されていますので、その機能の使用法に関するトピックを参照してください。Edition ごとの割り当てについては、「[Salesforce の機能とエディションの割り当て](#)」を参照してください。Salesforce契約により、契約上の制限が適用される場合もあります。

Apex ガバナ制限

Apex の制限については「[実行ガバナと制限](#)」を参照してください。

Apex はマルチテナント環境で実行するため、Apex ランタイムエンジンは、回避 Apex コードまたはプロセスが共有リソースを独占しないよう制限事項を強制します。

トランザクション単位の Apex 制限

これらの制限は、Apex トランザクション単位でカウントされます。Apex 一括処理の場合、これらの制限は `execute` メソッドでレコードのバッチの実行ごとにリセットされます。


次の表では、同期 Apex と非同期 Apex (Apex 一括処理と `future` メソッド) が異なる場合、それぞれの制限を記載しています。制限が同じ場合、表には、同期および非同期 Apex の両方に適用される 1 つの制限のみが記載されます。

説明	同期 Apex の制限	非同期 Apex の制限
発行される SOQL クエリの合計数 ¹	100	200
SOQL クエリによって取得されるレコードの合計数	50,000	
Database.getQueryLocator によって取得されるレコードの合計数	10,000	
発行される SOSL クエリの合計数	20	
1つの SOSL クエリによって取得されるレコードの合計数	2,000	
発行される DML ステートメントの合計数 ²	150	
DML ステートメントの結果として処理されるレコードの合計数、Approval.process、または database.emptyRecycleBin	10,000	
insert、update、または delete ステートメントによって繰り返しトリガする Apex 呼び出しのスタックの深さの合計数 ³	16	
トランザクション内のコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) の合計数	100	
トランザクション内のすべてのコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) のタイムアウトの最大累積値	120 秒	
Apex 呼び出し 1 回につき許可される future アノテーションを持つメソッドの最大数	50	
System.enqueueJob によってキューに追加される Apex ジョブの最大数	50	
許可される sendEmail メソッドの合計数	10	
ヒープの合計サイズ ⁴	6 MB	12 MB
Salesforce サーバの最大 CPU 時間 ⁵	10,000 ミリ 秒	60,000 ミリ 秒
Apex トランザクションごとの最大実行時間	10 分	
Apex トランザクションごとに許容される転送通知メソッドコールの最大数	10	
各転送通知メソッドコールで送信できる転送通知の最大数	2,000	

トランザクション単位の認定管理パッケージの制限

認定管理パッケージ (AppExchange のセキュリティレビューに合格した管理パッケージ) には、ほとんどのトランザクション単位の制限に対して独自の制限セットが設けられます。認定管理パッケージは Salesforce ISV パートナーによって開発され、Lightning Platform AppExchange から組織にインストールされ、固有の名前空間を持ちます。

1 つのトランザクションで呼び出せる認定名前空間の数は無制限です。ただし、各名前空間で実行できる操作の数は、トランザクションあたりの制限を超えることはできません。トランザクション内の全名前空間で実行できる累積操作数にも制限があります。この累積制限は、名前空間あたりの制限の 11 倍です。たとえば、SOQL クエリの名前空間あたりの制限が 100 だとすると、1 つのトランザクションで実行できる SOQL クエリは最大 1,100 個です。この場合、累積制限は名前空間あたりの制限 100 の 11 倍です。これらのクエリは、いずれかの名前空間のクエリが 100 を超えない限り、無制限の数の名前空間で実行できます。累積制限は、すべての名前空間で共有される制限 (最大 CPU 時間の制限など) に影響しません。

 **メモ:** これらのクロス名前空間制限は、認定管理パッケージの名前空間にのみ適用されます。認定されていないパッケージの名前空間には、別個に独自のガバナ制限がありません。使用するリソースは、組織のカスタムコードで使用されるのと同じガバナ制限に対してカウントされます。

次の表では、累積クロス名前空間制限について説明します。

説明	累積クロス名前空間制限
発行される SOQL クエリの合計数	1,100
Database.getQueryLocator によって取得されるレコードの合計数	110,000
発行される SOSL クエリの合計数	220
発行される DML ステートメントの合計数	1,650
トランザクション内のコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) の合計数	1,100
許可される sendEmail メソッドの合計数	110

Lightning Platform フォームの Apex 制限

次の表の制限は、Apex トランザクションに固有ではなく、Lightning Platform プラットフォームによって適用されます。

説明	制限
24時間あたりの非同期 Apex メソッド実行 (Apex 一括処理、future メソッド、キュー可能 Apex、およびスケジュール済み Apex) の最大数 ¹	250,000か、組織内のユーザライセンス数 × 200 の大きい方の値
組織ごとの、5秒を超える長時間のトランザクションに対する同期同時トランザクション数 ²	10
同時にスケジュールされる Apex クラスの最大数	100. Developer Edition 組織の制限は 5 です。
Apex Flex キューに入っている Holding 状況の Apex 一括処理ジョブの最大数	100
同時にキューに入っているか有効な Apex 一括処理ジョブの最大数 ³	5
Apex 一括処理ジョブの start メソッドの最大同時実行数 ⁴	1
1つのテストの実行で送信可能な一括処理ジョブの最大数	5
24時間あたりのキュー可能なテストクラスの最大数 (Developer Edition 以外の本番組織) ⁵	500 または組織のテストクラス数の 10 倍の大きい方
24時間あたりのキュー可能なテストクラスの最大数 (Sandbox 組織および Developer Edition 組織) ⁵	500 または組織のテストクラス数の 20 倍の大きい方
ユーザごとに同時に開くクエリカーソルの最大数 ⁶	50
Apex 一括処理の start メソッドでユーザごとに同時に開くクエリカーソルの最大数	15
Apex 一括処理の execute および finish メソッドでユーザごとに同時に開くクエリカーソルの最大数	5

静的 Apex の制限

説明	制限
トランザクション内のコールアウト (HTTP 要求または Web サービスコール) のデフォルトのタイムアウト値	10 秒
コールアウト要求または応答 (HTTP 要求または Web サービスコール) の最大サイズ ¹	同期 Apex の場合は 6MB、非同期 Apex の場合は 12MB

説明	制限
SOQL クエリの最大実行時間。この時間を超えると、Salesforce によってトランザクションがキャンセルされます。	120 秒
Apex リリース内のクラスとトリガの最大コードユニット数	5,000
ループリストのバッチサイズ用	200
Database.QueryLocator の 1 回の Apex 一括処理のクエリで返される最大レコード数	5000 万

サイズ固有の Apex 制限

説明	制限
クラスの最大文字数	100 万
トリガの最大文字数	100 万
組織内のすべての Apex コードで使用されるコードの最大量 ¹	3 MB
メソッドのサイズ制限 ²	コンパイル形式で 65,535 バイトコード 命令

転送通知の制限

Salesforce 組織に関連付けられた各モバイルアプリケーションで許容される転送通知の最大数は、アプリケーションの種別によって異なります。

モバイルアプリケーション種別	アプリケーションごとの 1 日の最大通知数
Salesforce により提供されたモバイルアプリケーション (Salesforce for iOS など)	50,000
内部の社員向けに自社開発されたモバイルアプリケーション	35,000
AppExchange からインストールされたモバイルアプリケーション	5,000

API 要求の制限と割り当て

同時 API 要求数の制限

以下は、20秒以上の同時要求(コール)数について、さまざまな種類の組織に対する割り当てを示しています。

組織種別	制限
Developer Edition 組織とトライアル組織	5
本番組織と Sandbox 組織	25

次の表は、組織の 24 時間あたりの API 要求(コール)数の合計の割り当てを示しています。

Salesforce のエディション	ライセンスの種類ごとの API コール数	24 時間あたりの合計コール数
Developer Edition	なし	15,000
<ul style="list-style-type: none"> Enterprise Edition Professional Edition (API アクセス有効) 	<ul style="list-style-type: none"> Salesforce: 1,000 Salesforce Platform: 1,000 Force.com - One App: 200 Customer Community: 0 Customer Community Login: 0 Customer Community Plus: 200 Customer Community Plus Login: 10 Partner Community: 200 Partner Community Login: 10 Lightning Platform Starter: メンバーあたり 200 (Enterprise Edition 組織) Lightning Platform Plus: メンバーあたり 1000 (Enterprise Edition 組織) 	15,000 + (ライセンス数 × ライセンスの種類ごとのコール数)、最大 1,000,000
<ul style="list-style-type: none"> Unlimited Edition Performance Edition 	<ul style="list-style-type: none"> Salesforce: 5,000 Salesforce Platform: 5,000 Force.com - One App: 200 	15,000 + (ライセンス数 × ライセンスの種類ごとのコール数)

Salesforce のエディション	ライセンスの種類ごとの API コール数	24 時間あたりの合計コール数
	<ul style="list-style-type: none"> Customer Community: 0 Customer Community Login: 0 Customer Community Plus: 200 Customer Community Plus Login: 10 Partner Community: 200 Partner Community Login: 10 Lightning Platform Starter: メンバーあたり 200 (Unlimited Edition 組織および Performance Edition 組織) Lightning Platform Plus: メンバーあたり 5000 (Unlimited Edition 組織および Performance Edition 組織) 	
Sandbox	なし	5,000,000

API 要求合計数の割り当ての増加

ユーザライセンスに基づく API 要求数の計算は、ユーザ数に基づいて組織に十分な利用可能数を許可するように意図されています。要求数を増やす必要があるが、ユーザライセンスの追加購入や Performance Edition へのアップグレードを希望しない場合は、API コールを追加購入できません。詳細は、営業担当者にお問い合わせください。

API コールを追加購入する前に、API 使用状況を精査します。API に対するコールを行うクライアントアプリケーションが、独自のエンタープライズアプリケーションであってもパートナーアプリケーションであっても、最適化によって、同じ処理を行うのに使用する API コールを減らせる場合がしばしばあります。パートナー製品をお使いの場合、供給メーカーにお問い合わせいただき、その製品での API の使用が最適化されていることを確認してください。API の使用効率のよくない製品は、会社に不要なコストを負わせることになります。


Chatter REST API の制限

制限によって、共有リソースが保護されます。これは、Chatter REST API のコンシューマの制限です。

Chatter REST API 要求はレート制限の対象になります。Chatter REST API には、他の Salesforce API とは異なるレート制限があります。Chatter REST API には、ユーザ、アプリケーション

ン、および時間ごとのレート制限があります。レート制限を超過すると、すべての Chatter REST API リソースが 503 Service Unavailable エラーコードを返します。

Salesforce のセッション ID を使用するアプリケーションの場合、レート制限はユーザごとおよび時間ごとになり、アプリケーションの個別のバケットはありません。セッション ID を使用してアクセスするすべてのアプリケーションでは、この一般割り当て数が使用されます。ユーザ、アプリケーション、時間ごとの制限を利用するには、OAuth トークンを使用します。

 **メモ:** 負荷、パフォーマンスやその他のシステムの問題によっては、その制限に達する前に使用できなくなる場合があります。制限は、通知なく変更される場合があります。アプリケーションは、使用可能な要求を効率よく利用し、503 エラーコードを適切に処理する必要があります。

Bulk API の割り当て

Bulk API の割り当て	制限の説明
バッチ割り当て	24 時間内に送信可能なバッチ数は最大で 10,000 件に制限されています。作成後 24 時間を超えたジョブにバッチを関連付けることはできません。終了したジョブにバッチを送信した場合、バッチは作成されませんが、そのバッチは、バッチ割り当てに対して送信済みバッチとしてカウントされます。
バッチの有効期限	作成後 7 日を超えたバッチやジョブは、ジョブの状況にかかわらずキューから削除されます。この有効期限は、ジョブに関連付けられた最も新しいバッチの作成日時によって判断されます。バッチが含まれていないジョブでは、ジョブの作成日時が基準になります。作成後 24 時間を超えたジョブにバッチを関連付けることはできません。
バッチサイズ	<ul style="list-style-type: none">データ読み込みのバッチは 10 MB 以下の単一の CSV ファイル、XML ファイル、または JSON ファイルで構成できます。1 つのバッチには、最大で 10,000 件のレコードを含めることができます。1 つのバッチには、最大で 10,000,000 文字のデータを含めることができます。1 つの項目には、最大で 32,000 文字を含めることができます。1 つのレコードには、最大で 5,000 項目を含めることができます。

Bulk API の割り当て	制限の説明
	<ul style="list-style-type: none"> 1つのレコードに含まれる項目には、合計で最大400,000文字を含めることができます。 バッチには何らかのコンテンツが必要です。バッチが空の場合はエラーが返されます。
バッチの処理時間	バッチはチャンクで処理されます。チャンクサイズは、APIバージョンによって異なります。APIバージョンが20.0以前の場合、チャンクサイズは100レコードです。APIバージョンが21.0以降の場合、チャンクサイズは200レコードです。各チャンクの処理時間には、5分という制限があります。また、バッチ全体の処理に10分以上かかる場合、BulkAPIではバッチの残りがキューに戻され、後で処理されます。その後の処理でも10分以内に完了できない場合、バッチがキューに戻され最大10回まで処理が試行されます。それでも完了できない場合は、バッチ処理が完全に失敗したとみなされます。
バイナリ型のコンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ファイル名の最大長は512バイトです。 zipファイルの最大サイズは10MBです。 コンテンツの最大合計サイズは、圧縮解除した状態で20MBです。 1つのzipファイルに含めることができるファイル数は最大で1,000ファイルです。ディレクトリはファイル数にはカウントされません。
一括クエリのクエリ試行回数	10分ごとに15回、バッチを処理します。クエリの処理時間には2分という制限もあります。クエリの試行回数が15回を超えると、「Tried more than ten times (試行回数が15回を超えました)」というエラーメッセージが返されます。クエリの処理時間が2分を超えると、QUERY_TIMEOUTエラーが返されます。
一括クエリの取得ファイル数	15個。クエリで返されるファイルが15個を超える場合は、クエリの検索条件を追加して返されるデータ量を減らす必要があります。一括バッチサイズは、一括クエリには使用されません。
一括クエリの結果の有効期限	7日間。
一括クエリの取得ファイルサイズ	1GB

Bulk API の割り当て	制限の説明
ジョブの Open 状態の時間	ジョブの状態が Open であるのは、作成後最大 24 時間までです。Bulk API では、バッチを毎時間に 1 つずつ、長時間にわたって追加するようなクライアントはサポートされません。

API クエリカーソルの制限

ユーザは一度に最大 10 個のクエリカーソルを開くことができます。同じユーザとしてログインしているクライアントアプリケーションが、新しい QueryLocator カーソルを開こうとしたときに、10 個のカーソルがすでに開かれていると、そのうち最も古いカーソルが解放されます。クライアントアプリケーションがリリースされたクエリカーソルを開こうとすると、エラーになります。

SOAP API コールの制限

API 参照名	API の制限	制限の説明
<code>create()</code>	最大作成レコード数	クライアントアプリケーションは、1 回の <code>create()</code> コールで最大 200 個のレコードを追加できます。create 要求が 200 オブジェクトを超えると、操作全体が失敗します。
<code>describeSObjects()</code>	返されるオブジェクトの最大数	<code>describeSObjects()</code> コールが返すことができるオブジェクトの最大数は 100 個です。
<code>emptyRecycleBin()</code>	ごみ箱内の最大レコード数	組織では、一度に 1 ライセンスあたり最大 5,000 件のレコードをごみ箱に入れることができます。たとえば、組織に 5 つのユーザライセンスがある場合、25,000 件のレコードをごみ箱に格納できます。組織のごみ箱が上限に達すると、Salesforce によって、ごみ箱に入れられてから 2 時間以上経過しているレコードが古い方から順に自動で削除されます。
<code>getDeleted()</code>	返されるレコードの制限	<ul style="list-style-type: none"> <code>getDeleted()</code> コールが 600,000 件を超えるレコードを返し、ユーザがシステム管理者の場合、EXCEEDED_ID_LIMIT 例外が返されます。 <code>getDeleted()</code> コールが 20,000 件を超えるレコードを返し、ユーザがシステム管理者ではない場合、OPERATION_TOO_LARGE 例外が返されます。ユーザが参照可能なデータだけでなく、

API 参照名	API の制限	制限の説明
		組織全体で20,000件以上のレコードが削除された場合、このエラーが発生することにご注意ください。
<code>login()</code>	ログイン要求のサイズ制限	ログイン要求のサイズは、10KB未満に制限されています。
<code>login()</code>	ユーザごとの最大コール数	<code>login()</code> は、1時間につき1ユーザあたり最大3600コールに制限されています。この制限を超えると、「Login Rate Exceeded」(ログイン数の制限を超えました。)エラーが表示されます。
<code>merge()</code>	マージ要求の制限	<ul style="list-style-type: none"> 1つのSOAPコール内に、最大200件のマージ要求を作成可能です。 親レコードを含めて、最大3つのレコードが1つの要求にマージ可能です。この制限は、Salesforce ユーザーインターフェースによって適用される制限と同じです。3件を超えるレコードをマージするには、連続するマージを実行します。 外部ID項目では、<code>merge()</code> を使用することはできません。 リードと取引先責任者のマージに対して最後に更新されたデータプライバシーレコードを保持するオプションを選択し、選択されたデータプライバシーレコードのCRUD権限がコール元でない場合、親レコードにすでに関連付けられているデータプライバシーレコードがマージプロセスにより選択されます。
<code>update()</code>	最大更新レコード数	クライアントアプリケーションは、1回の <code>update()</code> コールで最大200レコードを変更できます。200レコードを超える更新要求がある場合、操作全体が失敗します。
<code>query()</code> および <code>queryMore()</code>	バッチサイズ制限	WSCクライアントでバッチサイズを設定するには、接続オブジェクトに対して <code>setQueryOptions()</code> をコールします。C#クライアントアプリケーションでこの設定を変更するには、 <code>query()</code> コールを呼び出す前に、 <code>QueryOptions</code> コールでSOAPヘッダ部分にバッチサイズを指定します。最大バッチサイズは2,000レコードです。ただし、この設定はあくまでも目安です。要求されるバッチサイズが、


API 参照名	API の制限	制限の説明
		<p>実際のバッチサイズになるとは限りません。パフォーマンスを最大化するために変更が行われます。</p> <p>SOQL ステートメントがロングテキストタイプの 2 つ以上のカスタム項目を選んだ場合、バッチサイズは 200 未満になります。これは、大きな SOAP メッセージを防止するためです。</p>

メタデータの制限

次の制限は、Force.com IDE、Ant 移行ツール、およびメタデータ API に適用されます。

制限	説明
メタデータの取得とリリース	<p>一度に最大 10,000 ファイルをリリースまたは取得でき、リリースまたは取得する .zip ファイルの最大サイズは 39 MB です。次の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> Ant 移行ツールを使用して、展開したフォルダをリリースする場合、まずフォルダ内のすべてのファイルが圧縮されます。展開したフォルダ内の非圧縮コンポーネントの最大サイズは、圧縮率に応じて 400 MB 以下です。ファイルの圧縮率が高い場合、圧縮されたサイズは 39 MB を下回るため、合計およそ 400 MB を移行できます。ただし、バイナリ静的リソースのように、それほど圧縮できないコンポーネントの場合、移行できるのは 400 MB 未満です。 メタデータ API base-64 では、コンポーネントを圧縮後にエンコードします。生成される .zip ファイルが SOAP メッセージの上限の 50 MB を超えることはできません。Base-64 エンコードではペイロードのサイズが増加するため、エンコードする前に、圧縮済みペイロードが約 39 MB を超えることはできません。
変更セット	<p>受信および送信変更セットは、最大 10,000 ファイルのメタデータを持つことができます。</p>

SOQL と SOSL の制限

機能	制限	制限の説明
SOQL ステートメント	SOQL ステートメントの最大長	<p>デフォルトは 20,000 文字です。</p> <p> メモ: 多数の数式項目を含むステートメントなど、長くて複雑な SOQL ステートメントでは、<code>QUERY_TOO_COMPLICATED</code> エラーが発生する場合があります。このエラーは、元の SOQL ステートメントが上限の 20,000 文字未満であっても、Salesforce によって処理されるときにステートメントが内部展開されるために発生します。これを避けるには、SOQL ステートメントの複雑さを軽減します。</p>
SOQL WHERE 句	SOQL WHERE 句の最大長	4,000 文字
SOSL ステートメント	SOSL ステートメントの最大長	デフォルトは 20,000 文字です。この制限は、組織で定義されている SOQL ステートメントの文字数制限に関連付けられます。
SOSL 検索クエリ文字列	SearchQuery 文字列の最大長	SearchQuery 文字列が 10,000 字を超えると、結果行は返されません。SearchQuery が 4,000 文字を超えると、論理演算子はすべて削除されます。たとえば、4,001 文字の SearchQuery を含むステートメント内の AND 演算子は、デフォルトの OR 演算子になるため、予想よりも多くの結果が返される場合があります。
SOSL クエリ結果	返される最大行数	クエリでカスタム制限を指定しない限り、合計 2,000 件の結果 (API バージョン 28.0 以降)。以前の API バージョンで返される結果は 200 件です。
リレーションクエリ	リレーションクエリの制限	<ul style="list-style-type: none"> 1回のクエリに指定できる子-親リレーションは、35 個以下です。カスタムオブジェクトには最大 25 個のリレーションが許可されているため、1回のクエリでカスタムオブジェクトのすべての子-親リレーションを参照できます。 1回のクエリに指定できる親-子リレーションは、20 個以下です。

機能	制限	制限の説明
		<ul style="list-style-type: none"> 指定された各リレーションで、1つの子親リレーションに指定できるレベルは5つ以下です。たとえば、<code>Contact.Account.Owner.FirstName</code> は3レベルです。 各指定リレーション内で、親子リレーションの1つのレベルだけが1つのクエリ内で指定可能です。たとえば、<code>FROM</code> 句が <code>Account</code> を指定している場合、<code>SELECT</code> 句では <code>Contact</code> かそのレベルの他のオブジェクトのみを指定できます。<code>Contact</code> の子オブジェクトを指定することはできません。
FOR VIEW と FOR REFERENCE	許容される最大 RecentlyViewed レコード数	RecentlyViewed オブジェクトは、ログインユーザがレコードを表示または参照するたびに更新されます。また、SOQL クエリで FOR VIEW または FOR REFERENCE 句を使用してレコードを取得した場合にも更新されます。最新のデータを確実に使用できるようにするため、1オブジェクトにつきレコードが200件までになるよう、RecentlyViewed データを定期的に切り捨てます。RecentlyViewed データは90日間保持され、90日が経過すると定期的に削除されます。
OFFSET 句	OFFSET でスキップされる最大行数	最大オフセットは2,000行です。2,000より大きいオフセットを要求すると <code>NUMBER_OUTSIDE_VALID_RANGE</code> エラーが発生します。

Visualforce の制限

制限	値
Visualforce ページの最大応答サイズ	15 MB 未満
Visualforce ページの最大ビューステートサイズ	135 KB
Visualforce メールテンプレートの最大サイズ	1 MB
Visualforce ページを使用したファイルアップロードの最大ファイルサイズ	10 MB

制限	値
Visualforce ページが PDF として表示される場合の、表示前の HTML 応答の最大サイズ	15 MB 未満
PDF として表示される Visualforce ページの最大 PDF ファイル サイズ	60 MB
PDF として表示される Visualforce ページに含まれる全画像の最大合計サイズ	30 MB
JavaScript リモートコールの最大要求サイズ	4 MB
JavaScript リモートコールの最大応答サイズ	15 MB
JavaScript リモートコールのデフォルトタイムアウト値	30,000 ミリ秒 (30 秒)
JavaScript リモートコールの最大タイムアウト値	120,000 ミリ秒 (120 秒)
1 つの Visualforce ページ要求のクエリによって取得される最大行数	50,000
参照のみモードで 1 つの Visualforce ページ要求のクエリによって取得される最大行数	1,000,000
<apex:pageBlockTable> や <apex:repeat> などの反復コンポーネントで反復可能なコレクション項目の最大数	1,000
参照のみモードで、<apex:pageBlockTable> や <apex:repeat> などの反復コンポーネントで反復可能なコレクション項目の最大数	10,000
1 つの Visualforce ページに表示可能な最大項目セット数	50
1 つの Salesforce 組織につき許容される最大項目セット数	500
1 つの項目セットにつき、参照関係により関連付けることができる項目の最大数	25
StandardSetController で処理可能な最大レコード数	10,000